

熊楠ワークス

KUMAGUSU WORKS

第8回

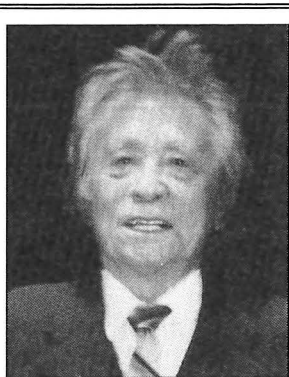
南方賞に四手井氏

森林生態学の発展に貢献

南方熊楠邸保存顕彰会（会長・脇中孝田辺市長）は、第八回南方熊楠賞に元京都府立大学長で、わが国の森林生態学の発展に大きく貢献した四手井綱英（してい・つなひで）さんを選び、賞状とトロフィー、副賞を贈りました。

四手井さんは昭和十二年、京都大学を卒業して秋田営林局職員に採用。従軍を経て戦後、森林雪害の研究に従事しました。昭和二十九年、母校京都大学の教授に迎えられる。同大学で国内初の森林生態学研究室を主宰。東大、北大、大阪市大と共同で森林の一次生産（有機物生産）力の研究

に力を注ぎました。この研究は昭和四十年から四十九年まで行われた国際生物学事業計画「生物生産力と人類の福祉」に引き継がれ、四手井さんが率いる日本の研究チームは世界をリードする成果を収めました。また同氏は、積雪と森林植生分布の関係、苗畑や人工林



四手井綱英氏

（してい・つなひで）

明治44年（1911）京都生まれ。86歳。昭和29年京都大学農学部教授に就任。50年に退官し、51年日本モンキーセンター所長、55年京都府立大学学長に就いた。61年に同大学学長を退官した。「日本の森林」（中央公論社）、「森の生態学」（講談社）など著書多数。

発行所
南方熊楠邸保存顕彰会
和歌山県田辺市新屋敷町1
田辺市教育委員会文化振興課内
TEL0739(22)5300(代表)

CONTENTS

- 2〜4面 万呂天王池の今・昔
- 5面 普段着の南方熊楠⑦
- 6面 神島を探る⑦・最終回
後藤 伸氏
- 7面 熊楠ゆかりの地⑦⑧
中瀬喜陽氏
- 8面 熊楠スケルトン

の栽植密度が林木の成長に及ぼす影響、森林群落の現存量と樹高の関係、里山林の起源など創意に富んだ研究を発表しています。

また自然保護、自然環境保全、文化財保護に関する各種委員を歴任し、屋久島や白神山、また身近な鎮守の森まで、多くの自然保護地域や天然記念物の指定・保護に貢献しました。

長く日本の農山村の生活を支えてきた低山地の自然を「里山」と呼び、活発な執筆活動を通じてその存在意義と保全の必要性を強調。今日の「里山」ブームの端緒を開いた業績は、身近な自然の保護を提唱した南方熊楠翁の活動を継承するものです。

受賞にあたって

南方熊楠賞受賞者に推薦されたとうかがった時には大変驚きました。私は中学に入学し

てから、そのころの博物の先生に連れられて、京都の近くの山を登り始めました。そして先生から色々自然のことを学び、山行きの楽しさにとりつかれました。京都大学では森林の研究に専念し、定年後はもっぱら日本の自然環境保全に関係して日本各地を巡りました。今回の受賞に十分な資格を持つていたとは全く考えられませんが、ありがたいこととお受けすることにしました。

南方熊楠賞 平成二年十月、南方熊楠翁（一八六七―一九四一年）の没後五十周年記念式典開催を契機に、翁の偉業をたたえて制定。国内外を問わず、翁の研究対象であった博物学的分野、民俗学的分野で業績があった研究者に贈っています。また、翁そのものの研究に顕著な業績があった研究者に特別賞を授与。表彰は年一研究とし、人文部門と自然科学部門から交互に選考しています。